

### 3. 富山県

月 日	時 間	活動内容
10月5日 (水)	14:51	富山県到着
	15:45 ~ 16:15	富山県庁表敬訪問 * 県代表挨拶 * オーストリア代表者挨拶 * 記念品交換
	16:30	ホテル到着 (CiC内) 富山市国際交流センター & 観光フロアー見学 (CiC内) オリエンテーション
	18:30 ~ 20:30	夕食交流会
	20:40	ホテル到着 セントラム乗車体験 (希望者のみ)
10月6日 (木)	9:50	海王丸パーク到着、見学
	11:30 ~ 12:30	昼食
	12:50	伏木高校到着
	13:20 ~ 15:10	授業参加、歓迎交流会
	16:00	竹内源造記念館到着 型抜き鍍絵制作体験
18:00	ホテル着、夕食	
10月7日 (金)	11:30 ~ 13:15	昼食 (環水公園内) 環水公園散策
	13:30 ~ 15:30	民俗民芸村、長慶寺にて日本文化体験 A 抹茶点て & 花寄せ & 書道体験 (円山庵) B 座禅体験 (長慶寺) & 五百羅漢 & 民俗民芸村内散策
	15:45 ~ 17:15	真国寺にて住職による英語講話「禅と創造性」
	18:30 ~ 20:30	歓迎会 (CiC 5F多目的ホール) ホームステイマッチング * 県代表挨拶 * 実行委員会代表挨拶 * ドミニカ共和国・オーストリア代表挨拶 * パフォーマンス 終了後、ホームステイ先へ
10月8日 (土)		終日ホームステイ
10月9日 (日)		フェアウエルティー (CiC 3F 富山市国際交流センター)
	13:19	富山駅発 はくたか564号
	15:52	東京駅到着
	16:45	都市センターホテル着

オーストリア、ドミニカ共和国の青年の方々の到着日、台風直撃の予報があり、皆さんが本当に到着できるのか大変心配していました。電車が時間どおり到着予定と聞きホームで待っていると、新幹線から降りてこられた青年たちの笑顔と元気な様子を見てほっとしました。(その日は電車が何本も運休しました。)バス、電車、新幹線を乗り継いだ長旅での来訪に本当にWelcomeという気持ちでした。

青年の皆さんは時間厳守で動いてくださり、また表敬訪問では、多くの質問が出て、富山に関心を持っていただいていることを大変嬉しく思いましたし、またそれぞれの場面での青年の皆さんのスピーチがすばらしかったのが印象的でした。また民族衣装が華やかで、地元の新聞社では、特別に子供向けの記事として写真と共に大きく掲載していただきました。

帆船海王丸船内見学では、14歳の挑戦(市が実施している職業体験プログラム)の生徒たちとの交流がありました。後日お礼に伺った際に、14歳の挑戦の生徒たちが感想文に、「青年たちとの交流が大変楽しかった」と書いていたそうです。保育園の子供たちもたくさん見学に来ていました。短い時間ではありましたが子供たちにとっても良い経験になったことと思います。

今回ホストファミリーを2世代で受けていただいた家庭がありました。お子さんが小さい時からホストファミリーをされており、そのお子さんが結婚されお子さんが生まれ、引渡しの際にホストファミリーとしてステージに上がっていただいた時には、感慨深いものがありました。現在この小さなお子さんが大きくなって、またホストファミリーを受けてくださるとい

いなあと思いました。

また、茶道の先生の姪子さんは国際青年育成交流事業(INDEX)のドミニカ共和国派遣青年で、その他INDEX派遣OBのお母様にもお手伝いいただき、INDEXファミリーが大きく広がっているのを実感しています。

訪問先(レストラン含む)の皆さんも、どうすれば良い時間を過ごしていただけるかいろいろ考えてくださっているのを見聞きし、大変感謝しています。花寄せ体験後の作品は、しばらく体験会場のお茶室に飾られ、来られた方々を楽しませてくれました。抹茶点で体験では、特別に柿と富山名産のお菓子がありました。近所に住む88歳の方が、このプログラムを知り、「是非青年に食べさせてあげてほしい」とそっと差し入れてくださったそうです。いろいろな方に支えられているプログラムなのだと実感しました。

受入れが決まってからあっという間の10か月でした。不思議なタイミングで夏にはオーストリア出身の友人の結婚式が東京であり、その際に観光局で資料をもらい、ホストファミリー、スタッフとの事前研修会に臨みました。

昨年に引き続き訪問先である伏木高校では、図書館にこの国際青年育成交流事業の報告書が付箋付きで閲覧棚においてあり大切にいただいていることを嬉しく思いました。この報告書を見て、将来この事業に参加する青年が出ることを願いつつ……。

この機会を与えてくださった内閣府、(一財)青少年国際交流推進センター、またお世話になりました県担当者始め関係機関の方々、またホストファミリーの方々に厚く御礼申し上げます。



このたびの交流事業では、オーストリアの方を我が家にお迎えしました。私は高校卒業後渡英し、ウィーン国立音楽大学（ピアノ科）に留学、9年間青春時代を過ごした経緯もあり、オーストリアは第二の故郷です。同郷のお客様という親近感を持って楽しみにしていました。

オーストリアのナショナルリーダーであるMoniは、年齢は私自身に近く、大変明るい活発な方で、家に向かう車の中ですでお互い打ち解け、話が止まりませんでした。彼女がこれまでに訪れたたくさんの国や地域のこと、そして現在のウィーンの様子、さらに昨今の日本とヨーロッパの若者の文化論まで、熱く語り合いました。

話に参加したい娘（11歳）は、自分の好きなモデルさんのファッション雑誌などを見せに来ましたが、そ

こからさらにMoniの持論が展開。「ダイエットや過度なお化粧品は必要ないのよ」など、外見上の「カワイイ」以外に自分自身に誇りを持つことの大切さを教え込まれました。親が言うと反発することでも彼女の言うことは素直に聞くのですから驚きです。たくさんの世界を知っている彼女の言葉には、思春期入り口にいる娘にとって説得力がありました。すっかり懐いてしまった娘は、お別れが寂しくてたまらなかったようです。特別なおもてなしはできませんでしたが、一緒に景色の良い美味しいカレー店へ行ったり、娘の歌の発表会を聴いてもらったり、私の仕事（オペラの稽古）の現場を見学してもらったり、等身大の生活を体験していただけたのではないかと思います。

お互いに、これからは親戚の家があると思って、長く交流していければ幸いです。

## ドミニカ共和国参加青年 エドワルド・アルセニオ・ミラバル・ド・ヘスス

私たちが富山に到着した最初の時から、最後まで一つの冒険でした。新幹線の旅を終えた私たちは、大変温かく出迎えていただき、この地で素晴らしい時間を過ごせることを確信しました。

地元の方々に大歓迎されていることを知り、その後、表敬訪問した県庁にて意見交換や県の概要説明、日本と富山について詳しく質問する機会を頂き、大変光栄でした。

富山市国際交流センターにて、富山県プログラムに関するきめ細やかなオリエンテーションを受け、レストラン・サントシで最高の夕食をいただきました。その美味しさは天使も感激するほどのものでした。

さらに翌日は海王丸パークを訪問し、そのシンボルである帆船の構造を見学し、詳しい説明を聞き、その美しさを体験しました。芸術作品であるこの帆船と富山の全てを堪能し、今回はレストラン・フェリッシーナで美味しい昼食をいただきました。

昼食後すぐに伏木高校を訪問しました。日本について様々なことを学ぶと同時に、若い高校生たちにドミニカ共和国とその文化、ドミニカ人の特徴を知ってもらいました。

私たちは意見交換を行い、パフォーマンスの踊りを披露した後、竹内源造記念館とフラワーアレンジメン

トの展示会を訪れ、日本の工芸分野の芸術作品を鑑賞し、心が洗われました。

翌日に訪れた環水公園は、見たこともないほど美しい場所でした。昼食会場のレストラン・ラ・チャンスを始め、ボートや公園が一望できる塔などがあり、超自然的な場所でした。

その後、長慶寺にて座禅体験、五百羅漢見学をした後、富山市民族民芸村を散策してその日を終わりました。これらを全て三日足らずで見ることができたのは素晴らしいことでしたが、ホームステイに代表される、人生を変えてくれる経験とは比べようがありません。17の家族が17人の見ず知らずの他人のために、家と心を開放してくださったことは私には信じがたいことでしたが、わずか2日間で本当の家族のような絆を結ぶことができたことは、かけがえのない出来事でした。

富山とそこでの素晴らしい経験と思い出に対し、心から感謝いたします。この気持ちはどんな言葉で説明しても十分ではないし、理解するには経験してもらうしかありません。これは人生を変えてくれる経験だとしか言えないので、まだこの経験をしていない人々に勧めたいと思います。

富山の皆様、ありがとうございました。

私たちの訪問を、楽しく快適そのものにしてくださった富山県の皆様に感謝いたします。素晴らしい経験になりましたので、近いうちにまた日本を訪れたいです。すてきな方々と出会い、このような短期間で新しい友人を得たことに感謝します。

富山県への移動は、初めて乗った最速で便利な新幹線を利用しました。県庁と富山市国際交流センターの皆様から温かい歓迎を受けました。大歓迎を受けた後、インド料理店「サントシ」で食事をし、その後セントラムとライトレールで市内を巡りました。

素晴らしい夜を過ごし、楽しい夢を見てぐっすり眠った翌日は、海王丸パークを訪問しました。立派な帆船が技師によって造られたことにとっても驚きました。訪問先の富山県立伏木高校では高校生と数時間過ごし、精神性について彼らに話したり、文化パフォーマンスを通じて自国の文化を伝えたりすることができました。次の訪問先の竹内源造記念館では、漆喰を使った型抜き鋺絵体験をしました。両親へのすてきな手作りのプレゼントができ、新しい創造力と手作り技術を習得しました。翌日、環水公園内のレストラン「ラ・

チャンス」で美味しい昼食をいただきました。レストランからは公園内の絶景が望めました。その後、環水公園を散策し、息をのむように美しいエリアを満喫しました。その日は、抹茶点て、花寄せ、書道、または長慶寺での禅体験と民俗民芸村散策のいずれかのコースを選択し参加することができました。いずれも心が落ち着き、魂が癒される、興味深い経験でした。

夜はホストファミリーの前で、地方プログラム最後の文化パフォーマンスを披露しました。その後、顔合わせしたばかりのホストファミリーから大歓迎していただき、たちまち家族の一員になりました。

一人一人に合わせた素晴らしい二日間のプログラムを過ごした後、私たちはホテルに集合しました。団員は口々に自らの素晴らしい経験について語っていました。温泉に行ったこと、初めて着物を着たこと、ファミリーと夕食に美味しいお寿司を食べたこと。駅では涙でお別れをして新幹線に乗り込み、新しい家族に最後に手を振りました。千キロ離れていようとも、私たちの心はいつも一つです。



## 4. 島根県

月 日	時 間	活動内容		
10月1日 (土)	10:05	羽田空港出発 JAL279便		
	11:30	出雲空港到着 昼食		
	14:00	松江市まちづくり行政 (説明)		
	15:00	オリエンテーション、ディスカッション開会式、地元参加青年顔合わせ		
	18:00	夕食会		
10月2日 (日)	9:40	3コースに分かれて視察		
		環境コース	教育コース	文化コース
		リサイクルプラザクリンピース 島根原子力館	玉湯公民館 地域活動視察	玉造温泉街 カラコロ工房周辺
		昼食		
	17:30	ホテル到着、振り返り		
19:30 ~ 21:00	文化交流会 * パフォーマンス * 受入側代表挨拶			
10月3日 (月)	9:00	3コースに分かれて視察		
	10:20	環境コース	教育コース	文化コース
			島根大学	
		ディスカッション、 まとめ、発表	ディスカッション、 まとめ、発表	ディスカッション、 まとめ、発表
	12:30	ローカルユースとの昼食会		
	14:00	地域視察・体験活動 松江城、堀川遊覧、イオン松江店		
16:00	夕食 (フリー)			
10月4日 (火)	10:00	公益財団法人安部榮四郎記念館 * 紙すき体験 * 施設見学		
	12:30	昼食		
	13:30	地域視察・体験活動 神魂神社、八重垣神社		
	16:00	島根県庁表敬訪問 * 県代表挨拶 * 青年代表挨拶 * 記念品交換、写真撮影		
	18:00	歓送会 * 県代表挨拶 * 実行委員会代表挨拶 * リトアニア代表者挨拶 * パフォーマンス		
10月5日 (水)	10:00	香川県へ移動		

国際ネットワークしまねが当事業の受入れを行うのは今回が初めてです。テーマに基づけばかなり自由度が高く面白そうと思ったのが希望した理由でした。

ところが日程が近づくと、いつも頼っていた会長が派遣のため、準備期間不在、そして予定より当日のスタッフ同行率が低く、ローカルユースも受入れ10日前の段階で5名という危機的な状況でした。また自由度が高い分私たちも迷うことが多く、何を持って成功となるか都度考えさせられました。

そんな状況を見かねてか、なかなか会の活動に参加がかなわない何人かのメンバーが連絡をくれ、食事会場や視察先の調整等いつもより多くの人員で準備を進めることができました。そして一番焦ったローカルユース集めも、スタートしてみれば13名の学生が入れ替り立ち替りかかわってくれました。当初は来られなかったはずの日程にも急きょ参加できるという連絡が

あり、その度に嬉しく思い、交流の成果を感じました。

参加青年は初日から熱心に話を聞いてくれ、改めてこの事業の質と意識の高さを感じました。全員が交流を楽しんでくれ、また私たちも当日想定外のことが起こってもできる限りの対応をしていたように思います。

天候も心配でしたが5日間一度も傘をさすこともなく、最終日は台風で急きょ朝8時半に出発。おかげで盛大に見送りをすることができました。

この受入れを通して反省すべき点は多々ありましたが、今後受入れをするに当たり、ローカルユースやスタッフが少しでもより楽に、そして活動自体をより楽しむ仕組みづくりにつながったと実感しています。最後に、かかわってくださった皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



## ディスカッション参加青年 池田 実咲

私は今回内閣府国際青年育成交流事業の受入れをしました。鳥根県代表のローカルユースとして、企画から当日の進行まで携わることができ、とても貴重な体験ができました。

企画では、文化、環境、教育のコースをそれぞれどのように視察すれば松江という土地を分かってもらえるのか試行錯誤を重ねました。当日は文化コースに参加し、玉造温泉街視察、和菓子・勾玉作りを行いました。リトアニア、パプアニューギニアの皆さんと課題を見つけながら、松江らしい文化を味わえたと思います。その後はどうすれば松江の観光が発展するか一生懸命議論しました。外国語の説明設置、積極的なアピール、子供のうちから文化教育、リトアニア政府の政策の取り入れなど様々な意見が出てとても勉強になりました。

した。海外の青年の意見を聞くと視野が広がり、日本人では気付かなかった点が出てきてとても興味深かったです。歓迎会、歓送会等も皆さんとお話できてとても楽しかったです。2か国の出し物としてダンスや歌を披露してくださり、文化を味わうことができました。私は司会やファシリテーターをさせていただき、皆さんをまとめる難しさも同時に実感しました。もう少しローカルユース同士が協力できれば良かったという思いはありますが、内閣府の方々を始め、企画から携わってくれた皆さんや外国青年の皆さん、視察先でお世話になった人々全員で作り上げた受入事業だったと感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。そしてこの鳥根県という土地で皆さんに会えたことをとても嬉しく思います。

## リトアニア参加青年 ミンドウガス・バーバイニス

国際青年育成交流事業の鳥根県プログラムは大変すばらしい経験でした。

リトアニア団を代表し、鳥根県プログラムでの団員の学びについて報告いたします。

まずお伝えしたいことは、鳥根の人々がもてなしの心にあふれ、誠実で率直、親切だったということです。出雲空港で地元青年とスタッフが両手を広げて出迎えてくださったことに感激しました。松江市に滞在中、私たちもコミュニティの一員として、鳥根の文化、伝統、神話について詳しく学びました。リトアニア団団員は幸運にも松江祭鑿行列の練習を見学させていただき、実際に参加して太鼓を叩きました。

鳥根は様々な神話と伝説に包まれており、それが今日まで受け継がれてきた、深遠な独自の伝統と文化の特質を形成しています。松江城とお堀、八重垣神社を巡ったことが一番印象的でした。

鳥根は神話に加えて、伝統工芸と貴重な専門技術・知識でも有名な土地です。それを支えているのは、創業時から続く、まがたまの里伝承館や安部築四郎記念館と、その職人たちによって今も受け継がれている和紙づくりの技術です。

鳥根県訪問はリトアニア団メンバーに忘れがたい記憶を刻みました。学びの多い旅であり、訪問先ごとに鳥根に対する興味が深まりました。このすばらしいプログラムが私たちに教えてくれたことはたくさんあります。また、強固な地域社会を築くことや、土地の神話を大切に保存し、伝統や祖先から受け継いだ技術を促進、復活させたりすることについての新しいアイデアが生まれました。



このレポートの目的は、2016年10月2日から5日にかけて島根県松江市で実施された環境、教育、文化コースのディスカッション・プログラムの概要と分析です。

パプアニューギニア団とリトアニア団は、国際青年育成交流事業地方プログラムで島根県松江市を訪問しました。この事業最大の目的は、6か国から来た参加青年が教育、環境、文化についてアイデアと情報を交換することでした。教育コースの課題別視察は、持続可能な発展と包括的地域社会への参加という概念の下に実施されました。訪問先の玉湯公民館は、地域の人々の重要拠点であり、災害時の対応策の好事例でした。パプアニューギニア団は日本と二国間連携、支援の可能性を感じました。そのための話合いが可能だと思います。

日本はパプアニューギニアと同じく災害の多発地域にあり、自然災害のリスクが非常に高いです。玉湯公民館でのディスカッションを通じて明らかになったのは、尊敬、謙虚さ、原則を維持しつつ、太陽エネルギーと持続可能な資源を活用し、グリーン経済と開発を推

進するという理想を掲げ、周到に備えるコミュニティの在り方でした。

島根は、気候変動問題を見据えて防災管理と緊急対策に力を入れています。長期的には農業や林業の分野も、気候変動の影響を受けます。パプアニューギニア団は気候変動について熱心にディスカッションに参加しましたが、島根とポートモレスビーの姉妹都市提携は、農業的な背景が類似している点からも実現可能だと思います。姉妹都市提携の中期的な目標は、太陽光発電をメインとした都市の緑化です。長期的には持続可能な開発とグリーン経済の推進を目指しています。パプアニューギニア団がこのプログラムに参加した目的は三つありました。一つ目は、自国に高度なリサイクルプロセスがないため、リサイクル工場とプロセス等、環境について学ぶこと。二つ目は、コミュニティの包括とグリーン経済、文化を促進している施設を見学すること。そして三つ目は、茶道と文化的価値を尊重する日本文化を味わうことでした。

